

否認が強いアルコール依存症に 対する病棟内内観療法の有効性

高橋優貴 小田島早苗 表昭廣 太田耕平



医療法人耕仁会札幌太田病院
ストレスケア病棟

第27回北海道内観療法懇話会・第8回日本臨床内観療法研究会

平成24年8月4日（土）日本心身医療研究会



1. 当院の治療実績

- 当院では、昭和49年から否認が強く治療に抵抗の強いアルコール依存症（以下ア症）に対し、病棟内で内観療法を導入し、治療効果を高めてきた。
- 当院を退院した100人の1年余後の断酒率は56%だった。

(2008年、第36回日本精神科病院協会精神医学会で発表)



2 . 症例紹介(A氏、60代、男性)

- 50代から飲酒時の家族への暴言・暴力があった。
- 飲酒時の警察沙汰が頻回にあった。
- 今回、飲酒時に娘の精神科薬を多量服用し、救急搬送された。
- ア症の専門治療のため当院に転院、入院となった。



A氏の治療・看護の経過

病棟内内観療法を導入(入院2日目)
面接時、内観療法・治療への強い抵抗あり。
看護師、酒害カウンセラーが自らの内観体験、
回復体験(ピア・サポート)などを伝えた。
「酒で誰にも迷惑はかけていない」と強く否認
根気強く回想(内観)療法を継続。



A氏の治療・看護の経過

内観療法終了時(入院14日目)

- 認知の変化

「内観が分かるようになった。酒の怖さを身に染みて感じた。ストレス解消を酒に求めていたが、今後は違う方法を考える。断酒会に参加する」

集団精神療法・認知行動療法、ランチオン内観断酒会に自主的に参加。3カ月で退院となった。

ランチオン内観断酒会の様子





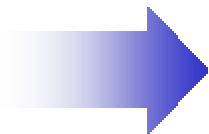
3. 症例紹介(B氏、60代、男性)

- うつ病、ア症で当院に2度の入院歴あり。
- 趣味は絵画。年数回、個展を開催。
- 飲酒時の家族への暴言・暴力、他人への迷惑行為があり、ア症、双極性感情障害で当院3度目の入院となった。

B氏の治療・看護の経過

入院時、治療への拒否・抵抗が顕著

- 理解力低下(長谷川式知能評価:18点)
- 記憶回想法的に根気強く・柔軟な対応を継続
- 絵画療法の際、講師として参加(ピア・サポーター)



治療への抵抗を徐々に排除

- 他のア症入院者の誘いもあり、次第に治療プログラム参加
- 断酒の決意を語るようになり、約3カ月で退院。

絵画療法の様子

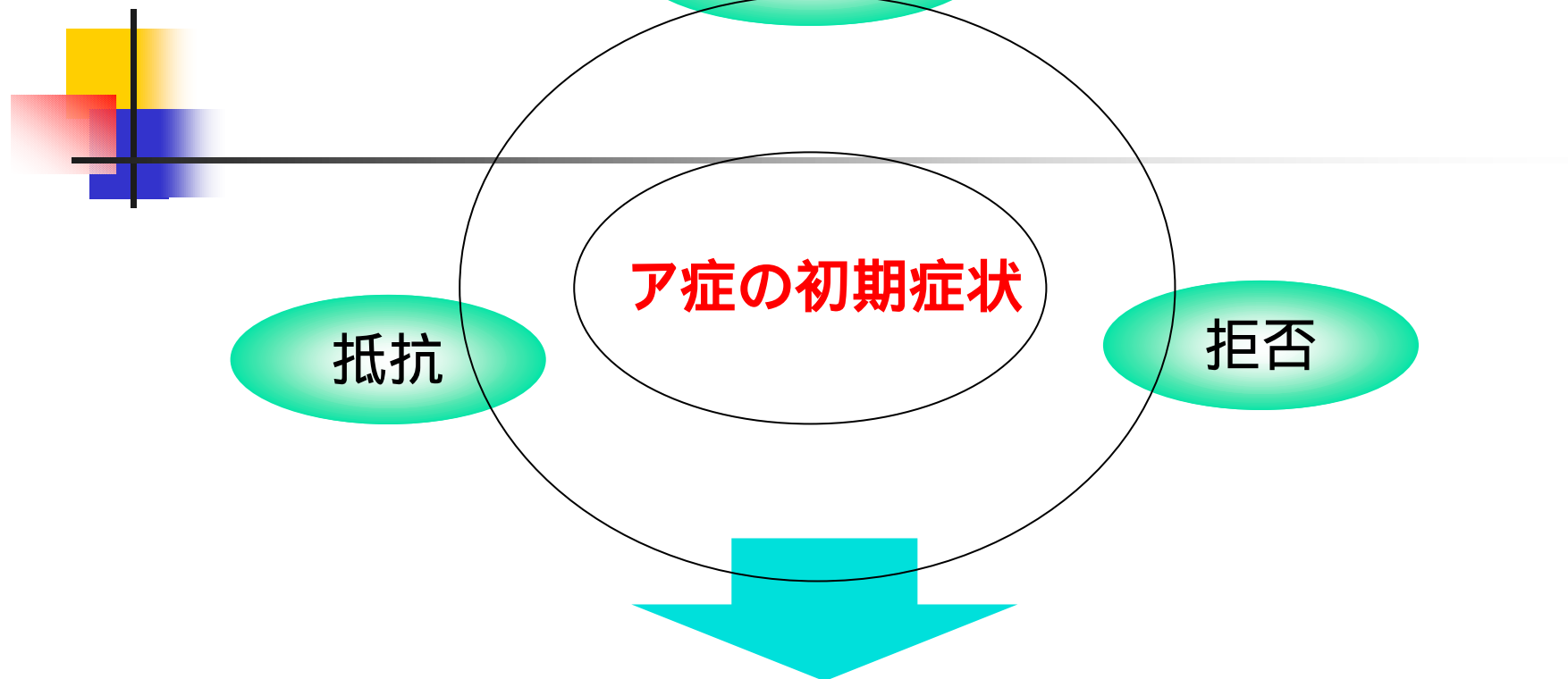


第27回北海道内観療法懇話会・第8回日本臨床内観療法研究会 平成24年8月4日(土)

絵画療法の様子



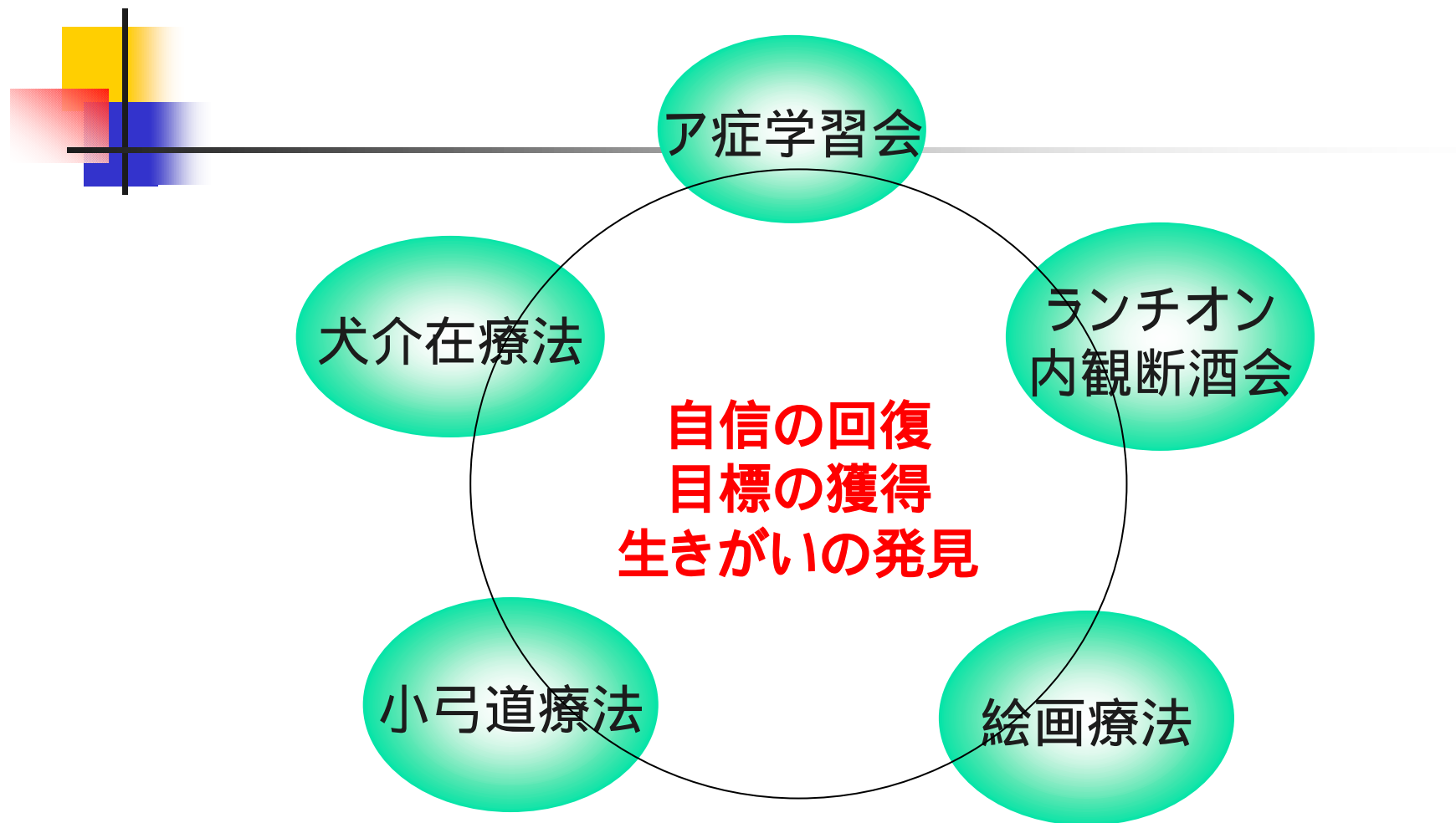
考察



医師、看護師、心理士、ピア・サポーター等の他職種による
根気強い回想(内観)療法的な関わりが、

治療の抵抗を排除、動機付けを可能

考察 【治療システム】 多様なプログラムとの併用



断酒の決意と後輩ア症者への支援などの社会貢献へ(ピア・サポート)

犬介在療法(太田式アニマル療法)の一場面



NAN(名無し酒なしの会)の一場面 四半的弓道体験の様子…楽しみつつ断酒へ





小弓道療法(大会) の一場面



第27回北海道内観療法懇話会・
第8回日本臨床内観療法研究会
平成24年8月4日(土)、日本心身医療研究会

考察

ア症者が「酒でどんな迷惑をかけたのか」深い認識が治療効果を高める。

個人の成育史を尊重した回想(内観)法は、

- ・ 多面的な自己観察、
- ・ 酒害認識、病識の獲得、が可能

回想(内観)療法による認知修正は、

→ ・断酒の決意の向上

→ ・積極的な治療参加

→ ・後輩ア症者への支援

(ピア・サポート)に発展

否認が強いア症には、回想(内観)療法が有効である